

## 平成26年3月期第2四半期決算について

(金額単位:百万円)  
百万円未満切捨て表示

## 1. 経営成績の概要

## (1) 全体概況

- 当期の決算は、景気が回復しつつある中、本年3月に開始した副都心線と東急東横線・横浜高速みなとみらい線との相互直通運転の効果もあり、旅客運輸収入が増加したこと等により、営業収益、営業利益、経常利益、四半期純利益がいずれも増加

上段:連結数値 下段:個別数値

	25年3月期 第2四半期(累計) A	26年3月期 第2四半期(累計) B	増減	
			金額 B-A	率 (B-A)/A
営業収益	189,317 (172,522)	194,987 (176,094)	+5,669 (+3,571)	+3.0% (+2.1%)
営業費	142,903 (127,464)	141,033 (125,047)	△1,870 (△2,416)	△1.3% (△1.9%)
営業利益	46,413 (45,058)	53,953 (51,046)	+7,540 (+5,988)	+16.2% (+13.3%)
経常利益	38,274 (37,994)	46,330 (44,981)	+8,055 (+6,987)	+21.0% (+18.4%)
四半期純利益	23,522 (23,860)	28,450 (28,321)	+4,928 (+4,461)	+21.0% (+18.7%)
四半期包括利益	23,496	28,465	+4,968	+21.1%

## ① 営業収益

1,949億円(前年同期比+56億円)

- 景気が回復しつつある中、本年3月に開始した副都心線と東急東横線・横浜高速みなとみらい線との相互直通運転の効果もあり、旅客運輸収入が増加したこと等により、営業収益は増加

## ② 営業費

1,410億円(前年同期比△18億円)

- 主として当社の減価償却費の減少等により、営業費は減少

## ③ 営業利益

539億円(前年同期比+75億円)

- 営業外収益は、前年同期並みの5億円
- 営業外費用は、支払利息の減少等により、4億円減少の81億円

## [営業外損益]

△76億円(前年同期比+5億円)

## ④ 経常利益

463億円(前年同期比+80億円)

- 特別利益は、鉄道施設受贈財産評価額等の計上により、12億円
- 特別損失は、固定資産圧縮損等の計上により、13億円

## [特別損益]

△0億円(前年同期比+0億円)

## ⑤ 四半期純利益

284億円(前年同期比+49億円)

## (2)セグメント別概況

		25年3月期 第2四半期(累計) A	26年3月期 第2四半期(累計) B	増減	
				金額 B-A	率 (B-A)/A
運輸	営業収益 (うち対外部顧客)	168,458 (160,407)	170,953 (164,280)	+2,495 (+3,872)	+1.5% (+2.4%)
	営業費	125,118	122,167	△2,950	△2.4%
	営業利益	43,340	48,786	+5,445	+12.6%
流通・ 不動産	営業収益 (うち対外部顧客)	19,668 (19,641)	20,760 (20,739)	+1,092 (+1,098)	+5.6% (+5.6%)
	営業費	16,905	17,781	+875	+5.2%
	営業利益	2,763	2,979	+216	+7.8%
その他	営業収益 (うち対外部顧客)	9,828 (9,269)	10,574 (9,967)	+746 (+698)	+7.6% (+7.5%)
	営業費	9,548	8,427	△1,121	△11.7%
	営業利益	279	2,147	+1,868	+669.1%
調整額	営業収益 (うち対外部顧客)	△8,638 -	△7,302 -	+1,336 -	- -
	営業費	△8,669	△7,342	+1,326	-
	営業利益	31	40	+9	+31.5%
連結	営業収益 (うち対外部顧客)	189,317 (189,317)	194,987 (194,987)	+5,669 (+5,669)	+3.0% (+3.0%)
	営業費	142,903	141,033	△1,870	△1.3%
	営業利益	46,413	53,953	+7,540	+16.2%

### ①運輸業

- ・景気が回復しつつある中、本年3月に開始した副都心線と東急東横線・横浜高速みなとみらい線との相互直通運転の効果もあり、旅客運輸収入が増加したこと等により、増収増益

### ②流通・不動産事業

- ・ベルビー赤坂のリニューアル、Echika fit永田町の開業等により、増収増益

### ③その他事業

- ・デジタル広告の導入拡大に伴う広告収入の増加や、トンネル内での携帯電話利用サービスが通期で寄与したこと等により、増収増益

## 2. 財政状態及び長期債務の概要

- ・当期末の総資産額は、固定資産が減価償却の進行等により減少したものの、譲渡性預金等の流動資産が増加したことにより、前期末比74億円の増加
- ・当期末の負債額は、前期末に計上した工事代等の未払金の支払等により、前期末比93億円の減少
- ・当期末の純資産額は、主として四半期純利益の繰入により、前期末比168億円の増加

	25年3月期 期末 A	26年3月期 第2四半期末 B	増減	
			金額 B-A	率 (B-A)/A
資産合計	1,269,341	1,276,819	+7,478	+0.6%
負債合計	848,746	839,379	△9,367	△1.1%
純資産合計	420,595	437,440	+16,845	+4.0%
長期債務残高	664,863	665,241	+378	+0.1%
自己資本比率	33.1%	34.3%	-	-
D/E レシオ	1.6倍	1.5倍	-	-

(注1 長期債務残高=長期借入金残高+社債残高)

(注2 D/Eレシオ=長期債務残高/純資産額)

## 3. キャッシュ・フローの概要

- ・営業活動によるキャッシュ・フローは、営業収益の増加があったものの、法人税等の支払額の増加等により、前年同期比3億円の収入減となる558億円の資金の流入
- ・投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資を中心に、前年同期比13億円の支出減となる356億円の資金の流出
- ・財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入れ及び社債の発行があったものの、長期債務の返済及び配当金の支払により、前年同期比217億円の支出減となる113億円の資金の流出

	25年3月期 第2四半期(累計) A	26年3月期 第2四半期(累計) B	増減 金額 B-A
営業活動による キャッシュ・フロー	56,199	55,862	△336
投資活動による キャッシュ・フロー	△36,984	△35,660	+1,323
(フリー・ キャッシュ・フロー)*	(19,214)	(20,201)	(+986)
財務活動による キャッシュ・フロー	△33,116	△11,368	+21,747
現金及び現金 同等物の増減額	△13,901	8,833	+22,734
現金及び現金 同等物の期末残高	27,808	39,788	+11,980

\*(フリー・キャッシュ・フロー)=営業活動によるキャッシュ・フロー+投資活動によるキャッシュ・フロー

【参考1】平成26年3月期第2四半期 連結損益計算書

(単位:百万円)	25年3月期 第2四半期 (累計) A	26年3月期 第2四半期 (累計) B	増減		主な増減要因
			金額 B-A	率 (B-A)/A	
営業収益	189,317	194,987	+5,669	+3.0%	旅客運輸収入 +5,620
営業費	142,903	141,033	△1,870	△1.3%	減価償却費 △1,913
営業利益	46,413	53,953	+7,540	+16.2%	
営業外収益	421	516	+94	+22.5%	
営業外費用	8,560	8,139	△420	△4.9%	
(うち支払利息)	(8,445)	(8,013)	(△432)	(△5.1%)	
経常利益	38,274	46,330	+8,055	+21.0%	
特別利益	68	1,281	+1,212	-	受贈財産評価額 +1,205
特別損失	220	1,337	+1,117	+506.7%	固定資産圧縮損 +1,219
税金等調整前 四半期純利益	38,122	46,274	+8,151	+21.4%	
四半期純利益	23,522	28,450	+4,928	+21.0%	

(百万円未満切捨て表示)

【参考2】平成26年3月期第2四半期 連結貸借対照表

(単位:百万円)	25年3月期 期末 A	26年3月期 第2四半期末 B	増減		主な増減要因
			金額 B-A	率 (B-A)/A	
流動資産	79,181	92,480	+13,298	+16.8%	譲渡性預金 +10,000 前払費用 +5,249
現金及び預金	19,459	18,292	△1,166	△6.0%	
その他	59,722	74,188	+14,465	+24.2%	
固定資産	1,190,160	1,184,339	△5,820	△0.5%	
有形固定資産	1,062,508	1,056,891	△5,616	△0.5%	
無形固定資産	92,688	91,654	△1,034	△1.1%	
投資その他の資産	34,963	35,793	+830	+2.4%	
資産合計	1,269,341	1,276,819	+7,478	+0.6%	
流動負債	168,799	169,135	+335	+0.2%	
1年内返済長期借入金 及び1年内償還社債	57,416	70,147	+12,731	+22.2%	
未払金	31,443	15,945	△15,497	△49.3%	
未払法人税等	17,795	18,196	+400	+2.3%	
前受運賃	14,919	16,169	+1,249	+8.4%	
その他	47,224	48,676	+1,451	+3.1%	
固定負債	679,947	670,244	△9,702	△1.4%	
社債	370,000	370,000	-	-	
長期借入金	237,447	225,094	△12,353	△5.2%	
退職給付引当金	52,309	53,533	+1,224	+2.3%	
その他	20,190	21,616	+1,426	+7.1%	
負債合計	848,746	839,379	△9,367	△1.1%	
純資産	420,595	437,440	+16,845	+4.0%	
負債・純資産合計	1,269,341	1,276,819	+7,478	+0.6%	

(百万円未満切捨て表示)

【参考3】平成26年3月期第2四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)	25年3月期 第2四半期 (累計)	26年3月期 第2四半期 (累計)	増減 金額	主な増減要因
	A	B	B-A	
営業活動によるキャッシュ・フロー	56,199	55,862	△336	
税金等調整前四半期純利益	38,122	46,274	+8,151	
減価償却費	35,507	33,594	△1,913	
営業債権の増減額	1,961	2,327	+366	
その他	△10,009	△8,921	+1,088	
法人税等の支払額	△9,382	△17,412	△8,029	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△36,984	△35,660	+1,323	
設備投資額	△38,495	△36,740	+1,755	
補助金の受入による収入	511	269	△241	
その他	999	809	△189	
(フリー・キャッシュ・フロー)	19,214	20,201	+986	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△33,116	△11,368	+21,747	
長期借入れ及び社債の発行による収入	9,943	19,943	+10,000	
長期借入金の返済及び社債の償還による支出	△32,532	△19,621	+12,910	
配当金の支払額	△10,458	△11,620	△1,162	
その他	△69	△70	△1	
現金及び現金同等物の増減額	△13,901	8,833	+22,734	
現金及び現金同等物の期首残高	41,709	30,955	△10,754	
現金及び現金同等物の期末残高	27,808	39,788	+11,980	

(百万円未満切捨て表示)

【参考4】平成26年3月期第2四半期 個別損益計算書

(単位:百万円)	25年3月期 第2四半期 (累計) A	26年3月期 第2四半期 (累計) B	増減		主な増減要因
			金額 B-A	率 (B-A)/A	
鉄道事業営業収益	167,217	169,926	+2,709	+1.6%	
旅客運輸収入	149,521	155,142	+5,620	+3.8%	定期 +2,321 定期外 +3,299
鉄道線路使用料収入	818	778	△39	△4.8%	
運輸雑収	16,877	14,006	△2,871	△17.0%	車両使用料 △1,530 広告料金収入 △1,390
鉄道事業営業費	124,562	121,738	△2,823	△2.3%	
人件費	41,978	41,982	+3	+0.0%	
経費	44,332	43,588	△743	△1.7%	車両使用料 △1,523
諸税	4,375	4,314	△60	△1.4%	電気料 +751
減価償却費	33,876	31,853	△2,023	△6.0%	
鉄道事業営業利益	42,654	48,187	+5,533	+13.0%	
関連事業営業収益	5,305	6,167	+862	+16.2%	携帯電話営業許諾料 +298
関連事業営業費	2,901	3,308	+407	+14.0%	
関連事業営業利益	2,404	2,859	+455	+18.9%	
全事業営業利益	45,058	51,046	+5,988	+13.3%	
営業外収益	1,511	2,080	+568	+37.6%	受取配当金 +453
営業外費用	8,576	8,146	△429	△5.0%	支払利息 △431
経常利益	37,994	44,981	+6,987	+18.4%	
特別利益	64	1,278	+1,213	-	受贈財産評価額 +1,205
特別損失	155	1,311	+1,156	+744.0%	固定資産圧縮損 +1,219
税引前四半期純利益	37,903	44,947	+7,044	+18.6%	
四半期純利益	23,860	28,321	+4,461	+18.7%	

(百万円未満切捨て表示)

【参考5】平成26年3月期第2四半期 個別貸借対照表

(単位:百万円)	25年3月期 期末 A	26年3月期 第2四半期末 B	増減		主な増減要因
			金額 B-A	率 (B-A)/A	
流動資産	72,806	86,560	+13,754	+18.9%	譲渡性預金 前払費用 +5,133
現金及び預金	17,785	16,554	△1,231	△6.9%	
有価証券	11,500	21,500	+10,000	+87.0%	
その他	43,520	48,506	+4,985	+11.5%	
固定資産	1,188,904	1,183,338	△5,566	△0.5%	
鉄道事業固定資産	1,041,455	1,033,885	△7,570	△0.7%	
関連事業固定資産	41,302	43,322	+2,019	+4.9%	
各事業関連固定資産	17,189	16,849	△339	△2.0%	
建設仮勘定	47,224	46,584	△639	△1.4%	
投資その他の資産	41,733	42,696	+963	+2.3%	
資産合計	1,261,711	1,269,899	+8,187	+0.6%	
流動負債	181,051	182,299	+1,247	+0.7%	
1年内返済長期借入金	27,416	40,147	+12,731	+46.4%	
1年内償還社債	30,000	30,000	-	-	
未払金	31,712	15,428	△16,283	△51.3%	
未払法人税等	16,448	16,913	+464	+2.8%	
前受運賃	14,919	16,169	+1,249	+8.4%	
その他	60,554	63,640	+3,086	+5.1%	
固定負債	672,728	662,953	△9,775	△1.5%	
社債	370,000	370,000	-	-	
長期借入金	237,447	225,094	△12,353	△5.2%	
退職給付引当金	49,724	50,681	+957	+1.9%	
その他	15,557	17,178	+1,620	+10.4%	
負債合計	853,780	845,253	△8,527	△1.0%	
純資産	407,930	424,645	+16,715	+4.1%	
株主資本	407,898	424,600	+16,701	+4.1%	
評価・換算差額等	31	45	+13	+43.9%	
負債・純資産合計	1,261,711	1,269,899	+8,187	+0.6%	

(百万円未満切捨て表示)



## 【参考6】平成26年3月期第2四半期 運輸成績の概要

[運輸成績は、前年同期比で、輸送人員(合計)が+3.6%増、旅客運輸収入(合計)が3.8%増と好調]

区分	輸 送 人 員			
	25年3月期 第2四半期(累計) A	26年3月期 第2四半期(累計) B	増減	
			人員 B-A	率 (B-A)/A
	千人	千人	千人	%
定 期	677,357 (3,701)	700,820 (3,830)	+23,463	+3.5
定 期 外	503,816 (2,753)	522,833 (2,857)	+19,017	+3.8
合 計	1,181,173 (6,455)	1,223,654 (6,687)	+42,480	+3.6

区分	旅 客 運 輸 収 入			
	25年3月期 第2四半期(累計) A	26年3月期 第2四半期(累計) B	増減	
			金額 B-A	率 (B-A)/A
	百万円	百万円	百万円	%
定 期	65,459	67,780	+2,321	+3.5
定 期 外	84,062	87,361	+3,299	+3.9
合 計	149,521	155,142	+5,620	+3.8

(注) 1. ( )内は一日平均

2. 単位未満切捨て表示(一日平均輸送人員は除く)

## 【参考7】相互直通運転を開始した副都心線のご利用状況

○副都心線は、平成25年3月16日の東急東横線・横浜高速みなどみらい線との相互直通運転開始以降、多くのお客様にご利用頂いています。

○平成26年3月期第2四半期の副都心線の日平均輸送人員は、47.0万人/日（定期：27.0万人/日、定期外：20.0万人/日）となり、前年同期比で+30.3%となりました。

### 【副都心線一日平均輸送人員(前年同期比)】

合計			定期			定期外		
1日平均	増減	増減率	1日平均	増減	増減率	1日平均	増減	増減率
470千人	+109千人	+30.3%	270千人	+63千人	+30.2%	200千人	+47千人	+30.4%

### 【副都心線の主な駅の日平均乗車人員(前年同期比)】

(人/日, %)

区 分	合 計			定 期			定期外		
	1日平均	増減	増減率	1日平均	増減	増減率	1日平均	増減	増減率
副・池袋	49,210	+7,419	+17.8	28,026	+5,950	+27.0	21,184	+1,469	+7.5
副・新宿三丁目	39,111	+12,402	+46.4	14,111	+4,477	+46.5	25,000	+7,925	+46.4
副・明治神宮前	14,466	+3,904	+37.0	3,001	+1,214	+67.9	11,465	+2,690	+30.7
副・渋谷	116,443	+48,879	+72.3	64,506	+27,092	+72.4	51,937	+21,787	+72.3

## 【参考8】主要駅における前年同期との1日平均乗車人員の比較

○前年同期比では、副都心線関連の駅と都心・副都心のビジネスエリアの駅（東京、豊洲、西新宿等）を中心に好調です。



※平成25年3月期における、ご利用の多い上位30駅と明治神宮前駅、新宿三丁目駅及び西新宿駅を記載

## 【参考9】平成26年3月期第2四半期における当社グループの主な取組

### 1 さらなる安心の提供

#### ●自然災害対策の推進

##### ・地震発生時に備えた震災対策の実施

首都直下地震等の発生時における早期運行再開を実現するため、従来補強不要と判定されていた高架橋の柱約1,200本を対象に耐震補強工事を実施しています。

平成25年9月末現在、有楽町線辰巳～新木場駅付近等4エリアで工事を開始し、146本完成しました。(平成27年度完成予定)

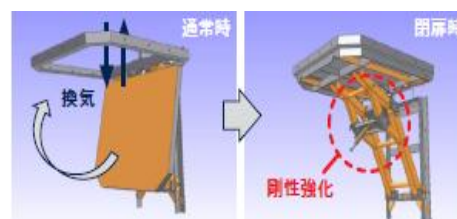


耐震補強イメージ

##### ・大規模水害に備えた浸水対策の実施

中央防災会議等の浸水被害想定に対応するため、出入口412か所、換気口102か所(511機)のほか坑口等において、浸水対策の強化を進めています。

平成25年9月末までに、換気口における水深6mの水圧に対応できる新型浸水防止機(従来は2m対応)の設置について、累計50か所(259機)が完了しました。(出入口412か所については、平成34年度完成予定。換気口511機については、平成27年度完成予定。坑口等については、平成34年度完成予定)



浸水防止機イメージ

#### ●トンネルの長寿命化

通常実施している土木構造物の維持管理の一環として、昨年4月から全路線を対象としてトンネル内面の近接目視及び打音検査を実施しています。本検査は1路線あたり1年をかけて行うものであり、平成25年度では、丸ノ内線の検査を進めています。



高所作業車による特別全般検査

#### ●ホームドアの設置

お客様に安心してご利用いただけるよう、ホームでの安全対策(転落事故、接触事故の防止等)としてホームドアの設置を進めています。

有楽町線新富町駅、月島駅、豊洲駅の一部、新木場駅で供用を開始しました。引き続き、平成25年度中に千川駅、豊洲駅の一部、辰巳駅において供用開始を予定しています。これにより、有楽町線全駅でのホームドアの設置が完了します。

この結果、東京メトロ全179駅中84駅の設置が完了し、設置率は約47%となります。



有楽町線ホームドア

## ●輸送改善・ネットワーク強化に向けた取組

### ・東西線の遅延及び混雑緩和対策

混雑に伴う遅延の解消を目指した取組を進めており、このうち門前仲町駅のホーム拡幅工事が完了したほか、南砂町駅のホーム及び線路増設に着工しました。

- 南砂町駅（平成32年度完成予定）  
→ホーム及び線路増設
- 茅場町駅（平成30年度完成予定）  
→ホーム延伸
- 門前仲町駅（平成25年6月供用開始）  
→ホーム拡幅
- 東陽町駅（平成26年度完成予定）  
→出入口新設



南砂町駅ホーム及び線路増設イメージ

### ・有楽町線・副都心線の輸送の安定化

遅延の解消や輸送障害発生時の円滑なダイヤ回復を図るため、小竹向原～千川駅間で既に供用を開始している池袋方面行き連絡線に続き、和光市方面行き連絡線を設置することにより、平面交差を解消する改良工事を進めています。（平成27年度完成予定）



小竹向原～千川駅間  
連絡線設置工事

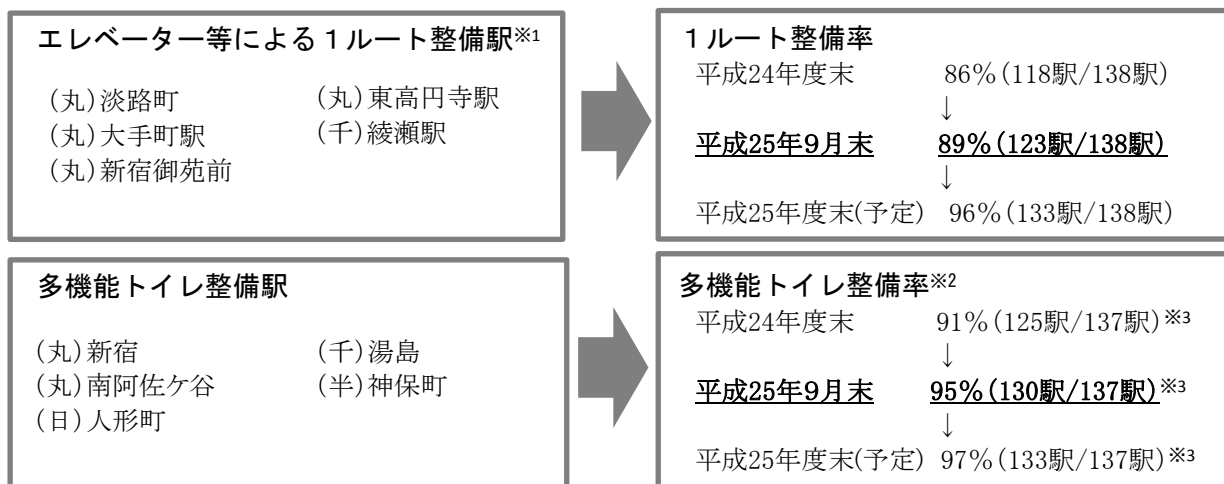
### ・朝、夜間・深夜時間帯で列車増発、最終列車の時刻繰り下げを実施

お客様の利便性向上を図るため、銀座線、丸ノ内線において、平成25年11月1日（金）からダイヤ改正を実施したことに加え、東西線においても、平成25年12月2日（月）にダイヤ改正を予定しています。

朝ラッシュ時、夜間・深夜時間帯での列車増発による混雑緩和を図るだけでなく、一部区間の最終列車の時刻を繰り下げ、当社線内での利便性向上及び深夜時間帯における他社線との接続改善を図ることとしています。

## ●バリアフリー設備の整備の推進

エレベーター等による1ルート整備について、積極的な用地の取得や施工のスピードアップにより、平成26年度中の100%整備を目指しています。平成25年9月末現在、89%となる123駅で整備を完了しています。



※1 1ルート整備とは、エレベーター、階段昇降機により段差が解消されたルートを確認すること  
 ※2 多機能トイレ整備率とは、車椅子対応トイレも含めた多機能トイレの整備を実施済みの駅の割合  
 ※3 現在移設工事中である銀座線渋谷駅を除いた駅数

## ●改札通過サービスの実施

平成25年9月27日(金)より、都営大江戸線をご利用のお客様が、日比谷線六本木駅の駅構内を通過して、六本木ヒルズ方面の出入口との間を往来できるようになりました。

本サービスは、丸ノ内線・南北線後楽園駅と都営三田線・大江戸線春日駅、有楽町線・南北線市ヶ谷駅と都営新宿線市ヶ谷駅に続き、3か所目の取組となります。



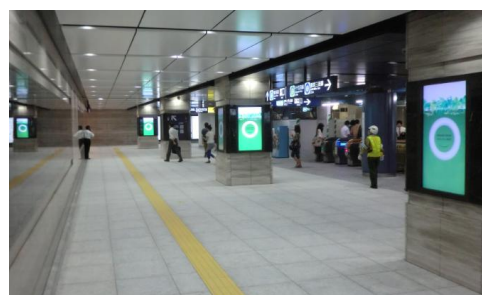
お客様ご案内ポスター

## 2 東京とともに成長

### ●沿線活性化・まちづくり

当社ではより良いまちづくりに寄与するため、駅周辺の再開発と積極的な連携を図っています。

平成25年8月から大手町タワーに接続する東西線大手町駅西改札前広間を拡幅し、お客様の通行をよりスムーズにするとともに、大手町タワー内のエレベーターを利用し、改札階から地上階、東西線と丸ノ内線の乗換をより便利にしました。



東西線大手町駅西改札前広間

### 【参考】平成26年3月期における個別投資実績

平成26年3月期第2四半期における個別投資実績については、安全投資や旅客サービスを中心に273億円の設備投資を実施しました。引き続き、たゆみなき「安全」の追求と、お客様視点に立った質の高い「サービス」の提供を目指し、平成26年3月期においては総額953億円の投資を行う予定です。

